たんの吸引等の業務ができるまで(例)

介護職員等、経過措置対象者、介護福祉士それぞれ以下の様な手続きが必要となります。

現在、介護職員等として、事業者や施設に就業している場合

①「喀痰吸引等研修」を 受講します。(修了後 「修了証明書証」が交付 されます。)

登録研修機関







④医師の指示の下、看護師等と連 携し、たんの吸引等の提供を行う ことができます。

事業所・施設



『認定特定行為業務従事者認定証』

たんの吸引等の業務を行うための証明書です。 (実施できる行為が記載されています。)

現在、既に一定の要件の下でたんの吸引等の提供を行っている場合 ※通知の範囲に限られる。

①都道府県に知識・技能を得ている旨の証 明手続きを行います。





③認定された行為につき、医師の指示の下に、 看護師等と連携して引き続き、たんの吸引等 を行うことができます。









『認定特定行為業務従事者認定証』

たんの吸引等の業務を行うための証明書です。 (実施できる行為が記載されています。)

これから「介護福祉士」を目指している場合

①養成施設に入学し、 養成課程の中で学習し ます。 養成施設



②卒業後、「介護福祉 士」の国家試験を受験 し、合格後に「介護福 祉士」としての登録を 行います。

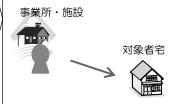
※「介護福祉士登録 証」が交付されます。



③事業者に就業します。 就業後「実地研修(※)」を受 講します。(修了後「修了証 明書証」が交付されます。)



④実地研修終了後、「介護福祉士登録 証」の変更を行った上、医師の指示の 下、看護師等と連携し、たんの吸引 等の提供を行うことができます。



(※)登録事業者における「実地研修」

介護福祉士については養成課程において「実地研修」を修了していない場合、事業者において必要な行為毎に「実地研修」を行わなけ ればならないことが義務づけられています。